市民活動を「若者」はどのようにとらえているのだろう。
「若者」の声を聴きたい――そこから始まった。

若者といっても千差万別である。
活動に参加するきっかけも市民活動へのかかわり方も多様である若者だが、
まずは身近にいる人たちの声を聴くことから始めよう。

今回の特集では、すでに市民活動に関わっており、
かつその分野で中心的に活躍している4人の若者に話を伺った。
その分野における、いわゆる「若手」と言われる人びとだ。
なぜ、彼らは市民活動の世界に身を置き続けているのか。
そこに社会の何を見ているのか。

我々は、これからの日本社会で生きていくうえで、より厳しい状況に
身を置かなければならなくなるであろうと言われている。

それぞれの分野の道を拓き、経験の豊かな「ベテラン」の人たちは、
少なからず、次世代を担う若手に期待を寄せている。
若手だからこそ出てくる、新しい発想や市民活動のかかわり方、
社会課題の解決の仕方があるかもしれない　と。

しかしそれは、今と同じやり方で若手に任せるということではない。
お互いが知恵や力を出し合い、一緒に歩む方法を考える、ということなのではないだろうか。

特集

若手が語る！

～市民活動の原点をみる～

先輩の背中を見て学ぶ、そんな機会をつくりたい

頼政良太（よりまさ・りょうた）
被災地 NGO 協働センター

学生時代に災害が続き、被災地の支援に奔走する日々を送る。その後、被災地 NGO 協働センターのスタッフに。

きっかけは足湯ボランティア

大学に入学したばかりの4月、能登半島地震（２００７年3月）での活動報告会が開かれ、そこに参加して足湯ボランティアのことを知りました*。初めて現地に行ったのはゴールデンウィークでしたが、そこで衝撃を受けました。地震発生後1か月も経つと、被災地を伝える報道は減っていましたが、現地の状況は変わらず、復旧はまだまだだったんです。翌6月にもまた、足湯隊として活動しに行きました。そうこうするうち、新潟県中越沖地震が7月16日に起き、現地の避難所や仮設住宅に入り、足湯ボランティアをしてまわりました。ちょうどその頃、足湯隊では4年生に代わり、1年の私が代表を引き継ぐことになって、足湯の活動から抜けられなくなったというわけです（笑）。

翌年には、岩手・宮城内陸地震（２００８年6月）、その後も愛知県内の8月末豪雨（２００８年8月）、台風9号（兵庫県等／２００９年8月）と災害が続き、その度に被災地に向かいました。足湯の活動だけでなく、チェンソーの使い方を教わりながら、がれきや泥の撤去もしました。日中は泥かき、夕方からは避難所で足湯、その後2時間かけて神戸の自宅に戻るという日々もありましたね。

このような活動を行いながら一方で、その頃は自分の将来に悩んでいました。ＮＧＯや災害関係の仕事につきたいと思うようになり、被災地ＮＧＯ協働センター（＝協働センター）に相談しアルバイトで雇ってもらいました。その後、２０１１年1月に霧島の新燃岳の噴火、3月に東日本大震災が発生しています。その間、私は協働センターに就職をしましたが、こうしてみると、災害が絶え間なく起こっているのですね。

災害の現場にかかわり続けるわけ

高校時代まで、ボランティアに興味がなかったわけではありませんが、これほど打ち込むとも思っていませんでした。活動してみて、そのイメージは変わりましたよ、「こんな世界があったのか」と。それから、どちらかと言うと、やれと言われてやるタイプだったのに、とにかく自分で考えるようになりました。当時、何もわからないまま足湯隊の代表になってしまい（笑）、後輩から「どうしたらいいですか？」と聞かれて困りました。その度に真剣に悩み、被災した方の自立を助けるためにはどうしたらよいのかと考えていました。それは今でも悩み続けています。

能登には、その後も継続して足湯の活動に通っていましたが、災害から3年が経つ頃、現地では被災した方が仮設住宅から復興住宅に移る時期でした。慣れた環境に戻れる方もいますが、そうではない方もいて、コミュニティが崩壊していくのを目の当たりにしました。現地に行くと、よそには伝わってこない復興の問題が見えてきて、ほっとけないと思いました。

現地の人に、直接聞かないとわからないことも、ずいぶんとあ

被災地ＮＧＯ協働センター

１９９５年の阪神・淡路大震災後、阪神大震災地元ＮＧＯ救援連絡会議の分科会の一つとして「仮設住宅支援連絡会」として発足。仮設住宅での生活支援の活動を行う。１９９８年4月1日、被災地ＮＧＯ協働センターと改称。阪神・淡路大震災での経験をいかし、国内外の自然災害地での救援活動や災害支援にかかわりつつ提言活動を行っている。海外災害ではＣＯＤＥ海外災害援助市民センター（ＣＯＤＥ）と連携・協力し活動を行っている。現在はスタッフ5名。ＣＯＤＥは3名。

〒６５２－０８０１ 兵庫県神戸市兵庫区中道通２－１－10
ＴＥＬ：０７８－５７４－０７０１
ＦＡＸ：０７８－５７４－０７０２
http://www.pure.ne.jp/~ngo/

＊ 神戸大学や神戸学院大学、大阪大学、新潟の長岡技術科学大学と被災地ＮＧＯ協働センターが連携し中越・ＫＯＢＥ足湯隊を結成し活動した。現在はＫＯＢＥ足湯隊と改称。